



トータルソリューションビジネスを展開

株式会社 ウエノ

取締役社長 上野 耕治 氏

昭和9年、工業薬品メーカーとして大阪の堂島で創業。昭和15年に設立した関連会社・上野化学工業(株)の「コロジオン」という薬品が、当時黎明期にあった写真製版工程に感光材として使用できることに着目し、昭和22年に写真製版市場に進出した。

昭和63年10月に上野化学工業(株)の販売部門として独立した同社は、写真製版に必要な資材・薬品・機械はもちろん、製版と印刷の業際がなくなる昨今は印刷薬品も数多く取り扱う。「環境に優しいことから急速

に普及が進むUV印刷用のクリーナーも好評を得ている」とのこと。これまでに培った知識とノウハウを生かして、環境問題をはじめユーザーの課題解決をサポートする「トータルソリューション」の提案でユーザー支援を行なう。

その他、これまでに培った画像形成技術をもとにした精密電子部品用のフォトレジストや、捺染用感光材などを次々と市場に送り出すなど、現在では多くの分野に進出を果たしている。

連絡先

〒532-0011
大阪府淀川区西中島7-4-17 新大阪上野東洋ビル12F
電話 06-6301-1555 FAX 06-6301-1557
e-mail info@uenocorp.co.jp
URL <http://www.uenocorp.co.jp>

「今までのストックである化学技術・化学形成技術のノウハウを生かしたトータルソリューションにより、これからも激変する市場環境に積極的に対応し、新しい時代に向かって力強く歩んでいきたい」。単一製品の販売ではなく、顧客企業のシステム提案、構築から保守までを幅広くサポートし、生産性、用途や予算、将来の発展性などをふまえた上で、数多くの機器群から最適なハードウェアと親和性の高いソフトウェアをピックアップして提案するビジネスを展開していく方針。



創業100周年、「DIC株式会社」へ

大日本インキ化学工業株式会社

インキ機材事業部 大阪インキ機材営業部長 三谷 敬 氏

1908年に印刷インキの製造及び販売会社として創業、明年2月15日に100周年を迎える。グローバル化をいち早く推進し、世界62カ国に所在する関係会社は213社にのぼる。新商号である「DIC(ディーアイシー)」は、略称として国内外に広く浸透しており、商号変更により、ブランド資産を継承しつつ、さらに英文表記とすることで、グローバルに事業展開する国際企業であることを明確にする。

商号変更に伴う新シンボルマークは、同社

グループと取引先とで生まれる新しい発想を「!」を用いて象徴的に表現。ワードタイプは、発想が生まれる瞬間の躍動を感じさせるイタリック体を用いている。また、両側のコンテナシェープのカラーは、同社のコーポレートカラーから青と緑を使用した。創業以来培ってきた経営資産をベースにしつつ、同社の地球環境への取り組みと経営ビジョンである「Color & Comfort by Chemistry - 化学で彩りと快適を提案する」を象徴している。また、コンテナシェープの形には、未来

に向け成長の新たな一歩を踏み出すという意思を込めている。

記念事業の一環として特別協力している川村記念美術館所蔵「巨匠と出会う名画展」は、現在兵庫県立美術館で開催中。

大阪支店は2004年に開設80周年を迎え、創業者川村喜十郎氏の志に思いを馳せ、全店一丸で事業推進している。三谷部長は1980年に入社後、一貫してオフセットインキ事業に携わっている。趣味のテニスは30年のキャリアを持つ大ベテラン。

連絡先

〒541-8525
大阪市中央区久太郎町3-5-19
電話 06-6252-9502 FAX 06-6252-7239
e-mail takashi-mitani@mb.dic.co.jp
URL <http://www.dic.co.jp/>



“省エネ対応”製本機械を開発

ピービーエム株式会社

代表取締役社長 松田 義之 氏

丁合機、無線綴機、三方断裁機の製造・販売及びメンテナンス業務を行なう製本機械専門メーカー。製本業界に自動化の波が押し寄せる前兆の時代であった1980年頃には、世界に先駆けコンピュータ搭載の無線綴機を開発した。現在はコンピュータとシーケンサネットワークの採用による機械間の通信により、製本機械作業の一元化と自動化システムを実現している。

1971年、欧州メーカー国内代理店として創業。メーカーへ転身してからは、研究・

開発に努力を重ね、今日の高性能無線綴機並びにライン化に必要な自動丁合機と自動三方断裁機の完全自動ライン化の実現に成功した。無論、小型の単体機械も取り揃え、ユーザーの幅広いニーズに対応している。75年に東京支店を開設、79年大阪市淀川区に本社工場を移転した。

中型クラスの製本機を主とし、製本専門家から印刷会社に至るまで、幅広いユーザーを持つのも同社の特長。「コンピュータ搭載はもちろん、昨今は省エネなど環境対応も

視野に入れた製品開発に力を注いでいる」と松田社長。IGAS2007ではその成果を見ることができそう。パワーフル無線綴機P-15型と丁合機PGO-I型を組み合わせた、コンパクト設計ながらも使い易く、大型機の性能を持ちあわせた少量多種製本に対応するライン機械。また、小型機ながらも大型機並みの装置を持ち多種多様な製本作業が可能でパワーフル無線綴機P-6型を展覧する。

「誠実」を方針とする松田社長は東京在住。東京大阪を往復する生活を送る。

連絡先

〒532-0035
大阪府淀川区三津屋南3-16-23
電話 06-6305-6056 FAX 06-6305-6058
e-mail matsuda@pbm.co.jp
URL <http://www.pbm.co.jp/>